

まえがき

前著『討論する歴史の授業⑤』は「ベトナム戦争」と「沖縄復帰」で終わっているのので、読者からその後の授業も紹介して欲しいという要望をいただいた。前著刊行後、「討論する歴史の授業」について研究集会などで報告する機会も増え、わかりやすく話せるよう理論的に整理しておく必要も感じていたので、その理論編も加えて、『続・討論する歴史の授業』という書名で続巻を刊行することにした。

続巻は、第1部を「授業の理論と方法」とし、第2部で授業案を紹介する構成とした。

第1部では、「物語が対話と討論を生む」として、生徒各自が物語世界を構築して討論することによって、先人の経験を自分ごととして学び成長することができること、それはまさに“主体的かつ対話的で深い学び”の実現であることを明らかにしようとした。これによって私の授業の原点に位置する安井俊夫実践と物語という方法との関連も理解することができた。

そして前著を刊行して数年後のいま、「討論する授業」は授業するたびに生徒との対話を経て改善されていくものであることを、続巻で読者に伝えたいとも思った。本文にも記したが、授業案は永遠に完成しないのである。そこで授業案が改善される過程を具体的に伝えるべく「授業案を改善する」と題して、次の3本を収録することにした。

「1年生最初の授業〈サル(?)から人間へ〉」

「教科書記述への疑問から改訂した授業〈黒船がきた〉」

「討論授業経験のない3年生の授業〈大日本主義か小日本主義か〉」

さらに、テストをどうしているかとたずねられることが多くなったので、「テストをつくる」と題して「単元テストで教え合いをつくりだす」と「定期テストで授業を再現する」の2本を収めた。

そのため第2部のスペースが十分取れなくなり、中学校社会科最後の授業で戦後史との接続とまとめを意識しておこなった「国際社会」の単元12時間分の授業案を収めるのが精一杯になった。掲載できなかった授業案については、他日を期したいと思う。

著者

なお、本書および『討論する歴史の授業』①～⑤巻に掲載されている「貼りもの資料」の画像データが必要な方には、巻末奥付に記載されている著者の住所に連絡いただければ、いつでもお送りできる。